

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園：湿地の観察会（2020/2/15 実施）～

参加者：7名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

みくり池の葦が刈り取られて、公園の湿地帯の約半分程がきれいな湿地帯になった。このために鳥がエサなどをついばむ様子が見え、観察には好都合のようだ。鳥からは我々が丸見えとなり警戒を強めているかもしれない。しかし、近くに散歩の人が現れてもさほど警戒しているようには見えなかった。

みくり池にはみ出た小枝の先にモズが来て、カルガモや他の小鳥などの動きをじっと見ている様子があった。小さな鳥ではあるが、なかなか「かっこいい」姿に見えた。モズは猛禽類なのだろうか？ 剣豪・宮本武蔵の「枯木鳴鶉図」が正にこれなのだろうか。



すっきり刈られたヨシ原



広場の梅は満開

南側のヨシワラがすっきり刈られて、見晴らしがよくなった。先に見える畦のあたりにカルガモがいくつか並んで、まるで日向ぼっこをしているようす。ハクセキレイが2～3羽、広々とした湿地の上で遊んでいる。そのうちにセグロセキレイも2羽やってきた。モズがコナラの枝に止まり、地面との間をを行ったり来たり。エサを探しているのかな。先月同様、カルガモの群れには、1羽茶色ポイものが混じっている。あれはちゃんと仲間には入れてもらえてないのでは？なんて人間さまは勝手に言っていたが、はたして。

残されている北側ヨシ群にはアオジが盛んに出入りし、ウグイスの地鳴きも耳にする。2月にしてはとても暖かく、今年は生物の春も早そうな気配。他にシジュウカラ、エナガ、ツグミ、シロハラ、ムクドリなど。広場の梅はすでに満開だった。

今回シロダモの虫こぶに注目した方がいらして、調べてみました。よく見かける葉の上の黄色っぽいつぶつぶです。虫こぶの名は、「シロダモハコブシ」で、この中にいる虫は、「シロダモタマバエ」の幼虫一匹、だそうです。さらに、この幼虫に産卵する虫「コガネコバチ」とか、虫こぶの中に産卵する「シロダモタマバエコマユバチ」がいるとか、ややこしいです。共にシロダモタマバエの幼虫を食べて大きくなるそうで、春の羽化する時にならないとどの成虫が出てくるかわからないそうです。どれも数ミリの小さい虫のようですが、厳しい生き方をしているんですね。本当に面白いと思いました。



シロダモハコブシ



虫こぶの中の幼虫（左上）

3月の観察会は、、、

3月21日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

観察会は**基本的に毎月第3土曜**に開催です。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）